INSIDE OF FENDER II

ここに掲げたショート・ストーリーはフェンダーのサービス精神を物語っている。
レフトハンドギターしかり、ストラップやケースなどのアクセサリーもフェンダーを
こよなく愛するオーナーのために考案された。
それらのいずれもが、フェンダーの冠を付けるにふさわしい。

(写真左より)
- ST57-55 ¥66,000 color T
- ST62-55 ¥66,000 color 3TS
- ST72-55 ¥66,000 color 3TS
- TL72-55 ¥66,000 color BLK
- PB57-55 ¥66,000 color VWH
- PB62-55 ¥66,000 color 3TS
- JB62-60 ¥72,000 color VWH

Left Hand Models!

サウスポーの有無がチームの勝敗の鍵を握っている野球。同じく右投げだが左打ちにしてる掛布。コナーズのスマッシュ。ちょっと古いけど「私の彼は左ききというタイトルのポップソング。とにかく左ききは特異であり、目立つ。ロックンロール界を見回せば、ポール・マッカートニーがいる、ジミ・ヘンドリックスもそうだ。サウスポーがいかにカッコ良いか、ギターをかついで鏡の前に立ちイマジネーションをきかせて一曲やってみると体験できる。みょうに気分が高揚して、とてもよろしい。鏡の前に立つと右ききになる正真正銘、由緒正しいレフトハンドギタリストのレフトハンドフェンダー。テレキャスター、ストラトキャスター、プレシジョン・ベース、ジャズ・ベースの4タイプ、全9モデルを製作し応えています。価格はそれぞれレギュラーモデルの20%アップ、例えばST57-55しならば¥66,000。イグヴェイ・マルムスティーンのように意識的にレフトハンドを使うギタリストもいる。ライトハンドの遊び心にも見事にフィットするレフトハンド・フェンダー。

Pre-CBS

テレキャスターにしろ、ストラトキャスターもプレシジョンベースもジャズベースやジャズマスターもレオ・フェンダーという革命児の超ラディカルなアイデアから誕生した。1965年1月にCBS(コロムビア・ブロードキャスティング・システムズ)へ1300万ドルで売却するまでの約25年間、彼がプロデュースし発表された楽器をプリCBS(CBS以前の)フェンダーと呼び、コレクター達は売却後に発表されたアイテムと分けている。CBSヴァージョンの象徴としてはラージサイズのヘッドストック、大型のスクリプト体を使った金文字に黒のトリミングを施したデカール、そしてFの刻印が入ったネックジョイントプレートなどがあげられる。

CASE

持ってる道具がその人のグッドテイストを物語るなら、その道具をどこに、どう収めているかも注目したい。ケースの話なんだけど、フェンダーの場合その形、素材の多彩さはギター本体に負けず劣らず豊富で、選ぶ時に悩まされる。一番ベーシックでヘヴィデューティなのがハードタイプ。ツイードを使ったものと塩ビとがあるが、機材と一緒にロードに出る人はこれに限る。スタジオやちょっとしたライブに参加するような時はセミハード。ジョルダータイプが便利だ。ギターと違って何度も買い換えるような物ではないけれど、ロードとスタジオ用に構造の異なるケースを2つぐらい持っているとギターも楽しい。

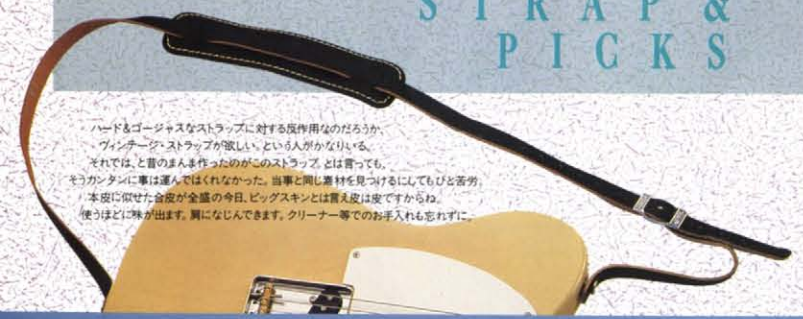
- TWEED CASE FOR GUITAR ¥33,000
- TWEED CASE FOR BASS ¥36,000
- HARD CASE FOR GUITAR ¥17,000
- HARD CASE FOR JAGUAR & JAZZ MASTER ¥17,000
- HARD CASE FOR BASS ¥19,000
- SEMI HARD CASE FOR GUITAR ¥12,000
- SEMI HARD CASE FOR BASS ¥13,000
- NYLON SHOULDER CASE FOR GUITAR ¥9,000
- NYLON SHOULDER CASE FOR BASS ¥10,000
- NYLON SHOULDER CASE FOR JAGUAR & JAZZMASTER ¥9,000
- NYLON SHOULDER CASE FOR SHORT BASS ¥10,000
- SOFT CASE FOR GUITAR ¥8,500
- SOFT CASE FOR BASS ¥9,500

STRAP & PICKS

ヴィンテージフェンダーを愛する男達が、愛器を抱えるための道具となると、ストラップである。椅子にこしかけて弾くなどもってのほか。花柄や、鋲を打ち付けたものものしいタイプは、いささか役者不足。肩ばかり目立って、ちぐはぐである。オーセンティックなヴィンテージにさりげなく手を添えるストラップとなると、細みでシンプル、カウスキンを使ったフェンダー純正のヴィンテージストラップにつきる。カナディアン・カウスキンの純朴な素材をいかし、粋なオリジナルバックルをあしらった50'S、60'Sのオーナーズストラップだ。使いこんでいくほど、肩に馴染んでくるのが嬉しい。

カラーはブラックとタン。プライスはどちらも¥3,800とリーズナブルだ。ストラップもそうだが、フェンダリアンならばピックにも凝りたい。最近のライブなどを観察すると、まるでノベルティグッズのようにステージ上からピュンピュン客席に向かってピックを投げつけてるアーティストが結構いる。個人的には、ヴェンチャーズのノーキー・エドワーズのような一枚のピックで全ステージをこなす人、ピックの使い方を心得ている人が好きだが。

ところでピックの素材だけど、セルロイド、メタル、べっこうと豊富だが、何といってもピックはカーボンに限る。フェンダー・ジャパンのカーボンピックはソリッドのカーボンから作った、いわゆるカーボン100%のピック。気を付けたいのは、カーボンピックと称するピックのほとんどがエッジ部分に他の素材を使って売ってる点だ。今のところ最高級の素材で、強度も高く、しなやかさと反発力を合わせ持つカーボンピックとなるとフェンダー・ジャパンの物がよろしい。カーボン100%で一枚¥200は自慢できる。用途に合わせたミディアムとエクストラヘヴィの2タイプがある。



ハード&ゴージャスなストラップに対する抵抗なのだろうか、ヴィンテージ・ストラップが欲しい、という人がかなりいる。それでは、と昔のまんま作ったのがこのストラップ。とは言っても、そうカンタンに事は運んでくれなかった。当事と同じ素材を見つけるにしてもひと苦労。本皮に似せた合皮が全盛の今日、ビッグスキンとは言え皮は皮ですからね。使うほどに味が出ます。肩になじんできます。クリーナー等でのお手入れも忘れずに。

■このカタログで使用したビデオは実機ビデオの協力を得ました。●アルカトラス・メタリック・ライブ '84 TE-M570 ●ロニー・レインアームズ・コンサート TE-M329 ●ビリー・ザ・ロック ビリー・スクワイア ライブ TE-M333 ●ジミ・ヘンドリックス・アライブ・オン・ライヴ TE-M574 ●ザ・ローリング・ストーンズ インザ ハイドパーク TE-M542 ■製品の規格及び価格は改良のため予告なく変更することがあります。■商品のカラーは印刷のため、実物と異なって見える場合もあります。 TWANG 8 1986-11-70 ©FENDER JAPAN, LTD.